

■いよいよ推薦入試！



来週から11月ですが、いよいよ大学や短大などの学校推薦型入試(指定校制・公募制)のシーズン到来となります。3年生のみなさんは、しっかりと準備を進めていってほしいと思います。

今年度から大学入試が大きく変わり、推薦入試においても、受験生の学力を一定程度確認するような内容が含まれています。多くは、小論文や5～10分程度のプレゼンテーションを行うといったものです。学校長の推薦を受けての入試となりますので、余程のことがないと「不合格」にはならないものと思われませんが、大学・短大の学部・学科の要求水準に達しておらず、「入学後、授業についてこられるか甚だ心配」ということを理由に、不合格になる人が出てくる可能性はあります。これは、来月以降、結果が出てこないと何とも言えないことですが、どのような入試であろうと、今後はこれまでよりも「学力が重視される」ということを念頭に置き、1・2年生の諸君は少しずつ、普段の授業に力を入れていってほしいと思います。実際、事前課題を提出した結果、「部活動に意欲的に取り組みたいというのは大いに結構だが、面接試験では、志望理由で学問的なことについてきちんと話せるように準備してきてください」という大学がありました。

加えて、今年度のある大学の「指定校制」の入試で、課題の事前提出を求められるケースがあったのですが、出願の1か月以上前の10月上旬までに、高校側からの受験者数の報告(該当大学のどの学部・学科を何名受験するという報告)とともにその事前課題を提出しなければならないというものでした。筆者も該当生徒も出願の際に提出すれば良いと考えていたのですが、気になって大学側に確認したところ、上記のように「課題も10月上旬までに提出」という回答でした。筆者は焦りましたが、該当生徒は非常にしっかりとしており、翌日には課題を仕上げ、直しもほとんどない形で清書して提出日に何とか間に合いました。

指定校制も含めて、入試方法はそれぞれの大学で異なります。先に記した大学のように、事前に「どの学部・学科を何名受験する」という報告をしなければならない大学も例年数校あります(※ほとんどの大学は、直接出願期間に提出すれば良いのですが、事前に報告しなければならない場合には、基本的に学校で作成する「指定校一覧表」に記載していますので、早めに担任や進路指導担当者に意思を伝えましょう)。課題については、事前に提出しなければならないケースもあれば、入試当日に小論文を書かせたり、プレゼンテーションさせたりするケースもあり、まちまちです(※プレゼンテーションの場合は、事前に課題が出され、それを準備して当日、試験官の前で発表するという形になるかと思います)。

今年度入試の反省のもと、次年度は少し変わることも十分に考えられます。1・2年生のみなさんは、少しでも早く情報を入手し、的確に対応できるようにしていきましょう。

最後に、10月20日(火)、体育館で3学年集会(特進を除く)を行った際、推薦入試に出願するにあたり、少なくとも、志願書、志望理由書、推薦書、調査書が必要で、調査書以外は学校に届いている指定校推薦用の要項か、大学のホームページから様式をダウンロードするかのどちらかだと伝えましたが、ピンと来ていない人もいそうで心配です。来週から受付開始という学校が多いと思います。期限に間に合わないなどということのないように注意してください！

■就職採用試験が解禁！



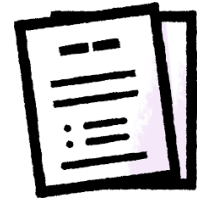
例年であれば、9月16日に解禁になる高校生の就職採用試験ですが、今年は新型コロナウイルスの影響もあり、1か月後ろ倒しになり、10月16日（金）が解禁日となりました。一般企業への就職希望者は10月19日（月）現在で17人おり、そのうちの15人がハローワークを通しての紹介である高校生求人で応募しました。それぞれ先週中に受験を終わらせ、内定通知が届いたり、結果待ちだったりという状況です（※本校では、採用・不採用を問わず、結果通知が届いたら、お礼状を書くように指導していますので、結果が届いた人は早めを書くようにしましょう！）。

就職希望者と面接の練習をしていて、普段使い慣れていないからか、敬語の使い方がおかしい生徒がいました。例えば、過剰な二重三重の敬語の使い方をしてみたり、身内の話をする際に、「母が弁当を作ってくださいり・・・」という言い方をしてみたり、という具合です。過剰な敬語は不自然ですし、身内のことを敬語を使って紹介するのは正しい日本語の使い方だとは思えません。最終的に、自分で何を言っているのかが分からないなどというケースもありました。まずは、正しい日本語の習得に努めてほしいと思います。

今年度も就職支援員の方に面接の練習をお手伝いいただきました。「元気よく話せる子と自信なさそうに話している子の差が大きい」と話されていました。実際、筆者も面接練習をしていて、自信なさそうに志望動機や質問事項に答えている生徒が何人かおり、「明るく挨拶しよう！」、「はきはきと受け答えしよう！」、「難しいことを話すより、やる気を伝えよう！」と話しました。志望する企業の事業内容を理解しておくことは大切だと思いますが、自分の頭の中で整理できていない人もいました。しっかりと順序立てて説明できるようにしておいてほしいものです。加えて、人事担当者のお名前については、職場見学でお世話になったり、お礼状を書いたりする際にしっかりと覚えている生徒が多いように感じっていますが、社長さんの名前が頭に入っているかは微妙なところです。支援員さんによれば、「受験する企業の社長さんの名前は覚えていった方がよい」とのことでしたので、ぜひ参考にしてほしいと思います。

基本的に面接においては、①志望動機、②高校生活（学習や部活動などががんばったこと、文化祭や修学旅行など思い出に残っていること）、③入社後、どのような社員を目指すか、の3点が重要なポイントになります。これから採用試験を受ける人、面接がある人は、ぜひ心して準備してください。

■受験報告書の提出を！



進学・就職を問わず、受験を終えたら、早めに「受験報告書」を提出するよう心がけましょう。特に、例えば、面接官が何人だったか、集団面接か個人面接かなど面接試験の形態、具体的な質問内容などは時間が経つと記憶が薄れていくものです。鮮明なうちに、詳しく書いてもらえると、後輩の大きな参考材料になります。3年生のみなさんも、先輩の残していった「受験報告書」を参考にして準備していたと思いますので、後輩が読んで参考になるように書いてください。

面接の内容だけでなく、小論文のテーマ、学力試験の内容等、できるだけ詳しく記載してほしいものです。こういったことは気をつけた方がよいということがあれば、ぜひ後輩に注意喚起してください！！

■ 大学入学共通テスト、濃厚接触者受験可能に

大学入学共通テストについて、以下に10月15日（木）付の読売新聞の記事を引用しますので、よく確認しておきましょう。

来年1月に実施される大学入学共通テストの新型コロナウイルス対策について、文部科学省は、濃厚接触者でもPCR検査で陰性だったなどの条件を満たせば受験できるとする案をまとめた。試験会場への入場時に検温を行わないことも決めた。10月15日（木）に開かれる政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会に案を示す。



共通テストは大学入試センター試験に代わって始まる試験で、50万人以上の受験者が見込まれている。文科省案では、濃厚接触者でも無症状であれば、①検査で陰性、②受験当日も無症状、③公共交通機関や人混みを避けて試験場に行く、④別室受験・・・の4点をすべて満たした場合、受験を認めることとした。

保健所に濃厚接触者と判断された場合、政府は感染者との接触後14日間、不要不急の外出を控えるよう要請している。

文科省は6月、濃厚接触者は受験できないとする指針をまとめたが、受験生の進路に大きく影響することなどから、方針を転換した。

文科省は、あわせて試験会場への入場時の検温も行わないことを決めた。機器の計測値が当日の気温や受験生の服装に影響される恐れがあることや、検温で受験生に動揺を与えかねないためとしている。受験生には自主的な検温を求め、37.5度以上の熱がある場合は受験させず、追試験の受験を求める方針だ。

■ 2年生の来室が増えています！

最近、2年生の進路指導室への来室が増えています。特に大学や短大、専門学校へ指定校推薦で進学を希望する人がいろいろ質問に来ています。3年生の各教室に指定校推薦の一覧表を配付していますが、毎年、基準となる評定平均値等が変わったり、それまで来ていた学校から指定校の枠が来なくなったりすることがあり、先入観を持たせないために1・2年生の教室には配付していません。それでも、現段階で、「どんな学校から指定校の枠が来ているのか?」、「受験したいと思う学校の評定平均値はいくつか?」といったことを気にしている2年生はいるようで、進路指導室に「どの学校を選択したら良いか?」を確認しに来る生徒が多くいます。進路指導室では、評定平均値などの基準や取得できる資格、学費等も含めて、よく確認しておくように話をしています。次年度変更になる可能性もありますが、現時点で示されている評定平均値に達しているかどうかの確認をし、足りない場合、3年の1学期末までにこれから先、2学期の期末考査を含めて4回の定期考査があるため、挽回することも十分に可能だと思われます。早いうちに、「自分が何を学びたいか?」、「その学びをするためにどの学校が良いか?」、「その学校の指定校推薦の枠は現時点で来ているか?」などを確認のうえ、これから先の定期考査に備えるのは大事なことになるでしょう。



■ 「読書週間」のさなかです！



女優の石田ゆり子さんは、自著『Lily - 日々のカケラー』（文藝春秋）に「鞆の中に1冊も本が入っていないと、私はなんだか焦ります。読むものがない！ どうしよう、と書店に駆け込んでなにかしら「読むもの」を買います」と記しています。本については、単行本、文庫、雑誌……。ジャンルも小説、ドキュメンタリー、写真集、絵本、画集などあらゆる本を読むそうです。自宅の一室を「本の部屋」にし、壁一面をすべて本棚にしたほか、ソファの横、テーブルの上、トイレ、キッチン、寝室のあちこちに本の山があると云います。先に記した本をはじめ、石田さん自身もたまに出版されることがありますが、石田さんにとって、〈本は相棒、友達であり、自分ではない誰かの思い、物語の中の世界、その中を自分のペースで旅をするような幸福感があり、そこに浸ることが何よりも幸せだ〉と述べています。

一方、明治大学教授の齋藤孝さんは、大学の教え子でTBSアナウンサーの安住紳一郎さんとコラボレーションして出版した『話すチカラ』（ダイヤモンド社）の中で、〈私は大学1年生のときに、「本棚を1年に1本ずつ増やす」という目標を立てました。大学生になって、本と本棚に投資をすると決めたわけです。1本の本棚に300冊くらいは入りますが、1年に読む冊数はそれを超えるので、かなりハイペースで本棚が増えていきました〉と述べています。筆者はこれまでに齋藤さんの本を20冊は購入していると思いますが、上記の本も含め、多くの著書で「読書の意義」を強調しておられます。特に小説などの文学作品に数多く触れることにより、人と会話するときなどコミュニケーションを取っていくうえで大切な感性が養われると話しているのが印象的です。

ちなみに、このことは筆者の大学時代の恩師もよく話していました。学生に限らず、人とやり取りをしていて、「この人は小説を読んでいないな」と直感的に分かると言うのです。筆者はいつしか、余程のことがないとあまり感情を表に出さなくなってしまうことがありましたが、恩師の影響もあり、これまでにかなりの数の小説を読んできました。特に吉村昭の歴史小説や山本周五郎の市井に生きる庶民や名もなき流れ者を描いた作品が好きで、長編小説ものめり込むように読みました。三浦綾子の作品も多く読みましたが、彼女の作品からは「生きるとはどういうことか？」を突きつけられることが多かったように思います。

脳科学者で東日本国際大学特任教授の中野信子さんは、『人は、なぜ他人を許せないのか？』（アスコム）の中で、〈私たちがネットで新しい知識を得た、新しいニュースを知った、と信じていても、実はそれはフィルターにかけられた情報ばかりで、自分の世界は非常に限定的であるかもしれないということ、意識する必要がある～中略～こうなってくると、ありきたりな話のように思えますが、さまざまな新聞や書籍を選び好みせずひと通り読むという行為は案外大切なのかもしれません〉と述べています。筆者も先に「齋藤孝さんの本を20冊は購入している」と述べたように、どちらかという、本の選択に偏りがあることは否めません。そのことを反省しつつ、4月末から5月初めの大型連休中はコロナウイルスのこともあり、「ステイホーム」が叫ばれましたが、筆者も「1日に1冊」というペースで6～7冊は本を読み、充実感がありました。夏休み中も、3週間弱の間はかなり本を読む時間がありました。それでも、まだ山のようにたまっている本を「できるだけ片っ端から読みたい！」という欲求に駆られています。2学期の始業式の際に、唐木校長先生から「読書をしよう！」というお話がありましたね。現在、「読書週間（10月27日～11月9日）」のさなかです。生徒のみなさんには少しでも多くの本に触れてほしいと思っています。

文責：清水聖（進路指導主事）